

★★

勝池レポート アジア資産運用アドバイザー 勝池和夫

「インド経済の可能性⑤ーシリコンバレーからデカン高原へー」

★★

今回は地図と写真を使い、インド経済の可能性を米国のテクノロジー企業のインド進出を例に、都市別にお話しします。

***ハイデラバード**…デカン高原中央部の新興ハイテク都市。人口 775 万人。写真の建物はアマゾンのオフィス。同社の米国シアトル本社との 3 倍の 1 万 5 千人を収容できる。ジェフ・ベゾスは、「21 世紀はインドの世紀になる」と予想し、インドシフトを加速させている。マイクロソフト、グーグル、フェイスブックも同市に拠点を置く。また、同市は世界のワクチン生産の中心地でもある。

***ベンガルール**…旧称バンガロール。デカン高原の標高約 920 メートルに位置する。「インドのシリコンバレー」と呼ばれ、人口は 850 万人。その戦略的な位置や豊富な人材から、「インドのスタートアップのハブ」としても有望である。今年 1 月にテスラが現地法人を設立、電気自動車の輸入販売の後に現地生産が見込まれる。アップルも同市に拠点があり、既に iPhone12 の生産を始めている。



***チェンナイ**…旧称マドラス。タミル・ナードゥ州の州都。自動車産業が盛んであり、「インドのデトロイト」と称される。人口 870 万人。インドの BPO のハブでもある。写真の米国カマラ・ハリス副大統領の母、祖父は同州の出身。

***プネ**…「東のオックスフォード」として知られる学術都市。デカン高原の西端に位置し、人口は 505 万人。アメリカ企業で AI の特許を一番多く保有するといわれる IBM の、世界の従業員の約 40% が同市で働いているとされている。また、

ムンバイに比べビジネスコストが安いことから、製造業の拠点も集結している。
***ムンバイ**…旧称ボンベイ。マハラシュトラ州の州都。インド最大の都市で人口は1,841万人だが、2050年には4千万人を超え世界一になると予想されている。

「夢の街」として知られ、インド準備銀行、ボンベイ証券取引所などの金融機関を始め、タタ・グループやリライアンスなど多くのインド企業が本社を構え、多国籍企業も主要拠点を置く。インドの映画産業の中心地でもあり、「ボリウッド」という俗称がある。写真の建物は、タタ・グループ保有のタージマハル・ホテル。

今から20年以上も前ですが、私はカリフォルニアのシリコンバレーを訪問しました。西海岸のITやバイオなどのハイテク企業に集中投資する、『ファンド・カリフォルニア』という新しいコンセプトのアメリカ株投信の設立準備のためです。その当時は、まさに夢のカリフォルニアでした。

しかし現在、世界のイノベーションの中心は、シリコンバレーからデカン高原にシフトしているようです。上記の5都市には、デジタル技術を活用したインドのユニコーン企業（評価額が10億ドル以上の非上場ベンチャー企業）の70%が集まっています。この高原からインドの夢が大きく膨らんでいます。



ハイデラバード



ベンガルール



チェンナイ



プネ



ムンバイ



デカン高原